



お辞儀することを学ぶ

サーリカー

私の名前はサーリカーです。両親のエイサとシャクンタラー、姉妹のプレーマ、そしてネプチューンというフワフワの犬と一緒に、米国ニュージャージー州に住んでいます。私は 15 歳です。シッダ・ヨーガの音楽家で、音楽は私にとっても大きな喜びをもたらしています。

私が9歳の時のある日、シュリー・ムクターナンダ・アーシュラムでの活気に満ちたサツツァングの後、シュリー・ニーラーヤに、人々がグルマーイと共に自然に集まりました。私はグルマーイのために演奏したいと思って、あるピアノ曲を練習していたので、それをささげる機会を得て大喜びしました。

私がピアノの椅子に座って準備をしていた時、グルマーイが「その曲の名前は何かですか」と尋ねました。

私は「『キリマンジャロ山』です」と答えました。グルマーイはホールにいる人々に、キリマンジャロ山がどこにあるか知っているかと尋ねました。その短いやりとりの間に、私は自分の指がすっかり最初の音を見つけられなくなっていることに気づきました。困惑して、とても熱心に練習したその曲を思い出そうとしましたが、私の手は鍵盤の上で宙に浮いたまま、同様に戸惑っているかのようなようでした。がちがちに緊張していましたが、私の心の動揺が私にこの機会を諦めさせることはありませんでした。

まさにその瞬間に、別の曲が浮かび、私は代わりにそれを演奏すると伝えました。私は心ゆくまで演奏しました。最後に両手を上げた時、私は喜びにあふれた拍手喝采を浴びました。立ち上がって、顔いっぱいになり、そして、どうしたらいいのかわからずに、愛と感謝が盛大に表されているのを、幾分まごついて見回しました。

その時、グルマーイがプロのピアニストであるクリシュナ・ワーナーに話し掛け、「サーリカーに称賛を受け取る方法を教えてあげてください」と言いました。クリシュナは立ち上がると、私の隣に来て立ちました。私は、彼が披露した伝統的なお辞儀の動きをまねしました。拍手がよみがえり、今度は丁寧にお辞儀しました。

私はそれ以来、称賛されることに尻込みすることはなくなり、いつも時間を掛けてそれを受け入れています——たとえ自分がうまくできなかつたと感じても。与えることと受け取ることの美しさ、他の人に何かをささげるといふ実践それ自体が神聖であること、そしてその返礼を常に心を込めて受け取ること、これらは私の人生において、不変の教えです。グルマーイ、それを私に教えてください、そして、開いた、受け取る心の、甘美な充足感を体験するよう助けてください、ありがとうございます。

私はあなたのハスの足に、私自身をささげます。詩聖ブラフマーナンダの言葉で。

(サーリカーの歌)

Balihari mai balihari mai,

Guru charana kamala para vari mai

Balihari mai balihari mai



© 2020 SYDA Foundation®. 著作權所有。